

良いところ	悪いところ
<p>○最乗寺 禅や天狗 観光ガイドの中身が濃い 道了尊が身近なので、古い歴史が身近に思える</p>	<p>○商業 和田河原にコンビニが多すぎる 買い物難民が増えている お店が閉まるのが早い 大雄山駅前の開発が進んでいない 道の駅にこだわりすぎ</p>
<p>○自然 ハイキングコース、ジオパーク編入 自然が豊かで綺麗、水が良質</p>	<p>○行政 人口が少ないのにうまく合意が作れない</p>
<p>○企業 富士フィルムが多方面で頑張っていて、地元のPRになっている 世界の富士フィルム・アサヒビール工場 市と富士ゼロックスと市民に係わるみらい創りプロジェクト（地方創生）</p>	<p>○企業 税収減、企業撤退</p>
<p>○グルメ 足柄茶、万葉うどん、まさカレー、天狗饅頭</p>	<p>○グルメ まさカレーパン売れてる？</p>
<p>○教育 公立幼稚園が学区ごとにある インクルーシブ教育の導入 保育料が安い 給食室があり自校給食</p>	<p>○教育 一時預かりの保育園がない 公園で小さい子どもがボール遊び出来ない 小田原に通勤している人の保育所は？</p>
<p>○防犯（教育グループ内の付箋） 青少年の夜間徘徊が少ない</p>	<p>○人口 人口減、若い人の流出、高齢化 自治会の高齢化、子ども会の急激な縮小 山間部の少子高齢化</p>
<p>○大雄山線 12分おきに来る、1時間に5本あるので便利</p>	<p>○交通 都心に行くのに不便、東京の大学に通えない バスの運行少ない</p>
<p>○交通 東名のインターから近い 通過交通が少なく、静か</p>	<p>○防犯 夜、暗い。学校区と防災マップが不一致で不安</p>
<p>○交通・施設 駅から市役所など近い 公共施設が大雄山駅の近くに集中</p>	<p>○施設 公共施設への指定管理者制度の導入</p>
<p>○施設 ホールや体育館など施設の充実 図書室に意外な良書がある 足柄ふれあいの村がある おんりーゆー（民間温泉施設）がある 新しい街並み区画整理、道路が広い</p>	<p>○認知度 認知度がないので小田原とされている 「これ!」というものがない イベントが少ない</p>
<p>○グループになっていない付箋 金太郎で有名</p>	

良いところ	悪いところ
<ul style="list-style-type: none"> ○山・川・海がある 海・山・川など自然が豊か 魚が新鮮でおいしい 	<ul style="list-style-type: none"> ○行政力 市役所のコンプライアンス・ガバナンスが不足 市の職員の態度が悪い 水道料金が高い 市民力に頼りすぎ
<ul style="list-style-type: none"> ○知名度が高い 知名度があり、全国的に有名 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害対策 大地震・津波の心配 災害対策がされていない
<ul style="list-style-type: none"> ○有名人 二宮尊徳 ゆかりの地 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通の問題 道が狭く複雑すぎる、混んでいる 一方通行が多い ドライバーのマナーが悪い 駅前の道路がわかりにくく危険
<ul style="list-style-type: none"> ○交通の便が良い 新幹線が止まるので都心への通勤に便利 新幹線・大雄山線・JR東海道線・小田急線 ダブルインカムを呼び込める要素がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○公共施設の老朽化 公共施設が古くなり、新たな投資が出来ていない 市民会館が老朽化 小田原アリーナが活用されていない
<ul style="list-style-type: none"> ○文化財に恵まれている 文化財が豊かで、観光客が多い 小田原城・歴史的な遺跡がある 城下町・一夜城 	<ul style="list-style-type: none"> ○保守的 保守的な街、新規参入がしづらい 若い人の雇用が少ない 地域性が強い、年功序列 市民活動をしている人が多すぎて意見がまとまらない
<ul style="list-style-type: none"> ○医療が充実 中学3年生まで医療費助成 市立病院・小児夜間救急がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○駅前に活気がない 地価が高く、駅前再開発が遅い 個人商店が弱い 駅前に保育施設が無い 商業施設が駅から離れている。
<ul style="list-style-type: none"> ○市民の力がある 消防団の結束力 お店が多く、商店街が強い 郷土愛が強い 青年会議所の結束力・実行力 	<ul style="list-style-type: none"> ○駅前に活気がないに関連するグループ のぞみがとまらない ビジネスホテルが少ない 駅近に大きい会議室やホールが無い
<ul style="list-style-type: none"> ○市民の力がある（市民活動の視点） ボランティア活動が活発 市民活動の拠点がある 市民活動をしている人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て機能が無い 公立保育園の保育料が高い 都市のわりに子育て機能がない 産科（生む場所）が少ない 人口が増えない、若い人が外に出て行く セーフティネットが足りない
<ul style="list-style-type: none"> ○特産品・名産品がある 木工製品などのものづくり 学校給食に地産地消 うめ・レモンなどのブランド化 新鮮な海産物や豊富な木材 小田原ちょうちん・寄木細工 	
<ul style="list-style-type: none"> ○イベントが多い 毎週さまざまな場所でイベント うめまつり・えっさホイおどり 小田原アリーナ・小田原球場 	

良いところ	悪いところ
<p>○自然が豊か 水がきれい、山に囲まれている ジオパーク</p>	<p>○若い人が少ない 若い人がいない 大学がない 高齢化</p>
<p>○昔は財政が豊かだった 水道料金・ゴミ袋が安いと思う 田舎だけどぎりぎり神奈川なので最低賃金が930円 都市計画がしっかりしている 財政が厳しい中やってきた行政が持つノウハウ</p>	<p>○大きい病院がない 小児科・産婦人科が少ない 医療費助成が小学校4年生まで 大きい病院・出産できる病院がない</p>
<p>○富士フィルム 富士フィルム・アサヒビール・富士ゼロックス 富士フィルムがあり定期的な人口流入</p>	<p>○グループになっていない付箋 富士フィルムの景気に左右される</p>
<p>○観光資源 金太郎が有名 金時山・最乗寺・夕日の滝</p>	<p>○「売り」がない 何が名産なのかわからない 特産品がない 全国的に有名な金太郎を活かしきれていない よいしょ君（南足柄市マスコットキャラクター）の知名度がない 全国的に無名</p>
<p>○土地が広い コンビニの駐車場が広い 農地が余っている 道が広い 開発できる広い土地が多い</p>	<p>○花粉症が多い 花粉症の人には厳しい 花粉が多すぎ</p>
<p>○交通 東名へのアクセス 大雄山線がある</p>	<p>○交通不便 都心に通うにはアクセスがづらい 車がないと不便、バスが少ない 街灯が少ない、暗い</p>
<p>○公共施設 文化会館がある 公立幼稚園があり、保育料が安い 小田原市民が行く温水プールがある ばーばくらぶ（シルバー人材による子ども預かり）</p>	<p>○公共施設の老朽化 警察署がない 公共施設の老朽化</p>
<p>○人が良い 人が優しい 市役所の職員の「いらっしゃいませ」が気持ちよかった</p>	<p>○店が少ない 大型スーパーや商業施設がない 商店が少ない、商店街がない 駅が寂れている</p>
	<p>○働く場所が少ない 産業が活発でない</p>

第3回

平成29年2月23日(木) 午後7時00分～9時20分

南足柄市役所 401・402 会議室

「安心・安全に暮らすために」及び「子どもや未来を担う人を育み、学び続けるために」の2つのテーマの中で、「私たちの地域がこうなったら良いな」と「そのために必要なこと(具体的に何をしたら良いか)」、「必要なことのうち市民が出来ること」をグループで話し合った。

主 な 意 見

テーマ：安心・安全に暮らすために

○医療の充実に関する意見

新しい病院の誘致や産婦人科の充実。

○防災・震災への対策に関する意見

避難場所の整備や避難場所・避難経路の周知、避難場所などとして、市域を広域的に見て活用する。

○安心して歩けるまちに関する意見

交通ルールが守られている。防犯対策がしっかりと実施されている。

○地域福祉に関する意見

年齢や障がいのあるなしに関わらず安心して住み続けられる。

【市民が出来ること】

災害への対策として、各家庭での備蓄。

安心して歩けるまちにするために、交通安全や夜道のパトロールなどの地域活動やボランティア活動

テーマ：子どもや未来を担う人を育み、学び続けるために

○医療に関する意見

病院施設や小児夜間診療体制が充実している。

小児科や産科が維持されている。

○子育てに関する意見

安心して出産・子育てができる環境が整っている。待機児童がゼロになる。

○生涯学習に関する意見

地域に誇りを持てるような地域密着型の教育が実施されている。

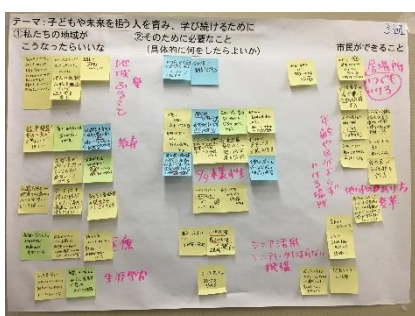
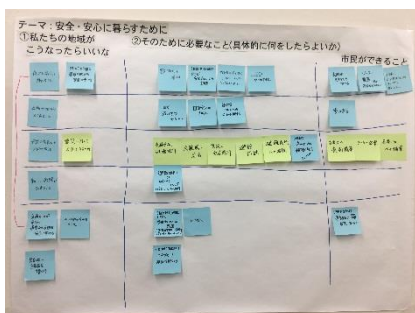
伝統的な職業の体験ができる。

【市民ができること】

地域の人が、郷土教育の講師役で協力する。

育児経験者による相談の場を開く。

子ども食堂などの定期開催による、子どもの居場所を作る。



※上段は左から「安心・安全に暮らすために」について話し合った1班、2班の内容。下段は左から「子どもや未来を担う人を育み、学び続けるために」について話し合った3班、4班の内容。

こうなったら良いな	そのために必要なこと	
		市民が出来ること
昼夜問わず、安全に歩けるまち ○夜でも安心して帰れる ○街灯が増え、昼夜問わず安全に歩ける	○街灯の増設（行政）、LED化 ○どこが安全でないのか調査（行政） ○街灯の代わりとなるもの、スーパーやコンビニの明かり	○玄関の明かりをつける ○ソーラー発電の明かりにするなどの工夫 ○どこに街灯をつけてほしいか自治会に要望をする
近所とのつながりやコミュニケーション ○近所とのつながりがある	○まず、あいさつから！！ ○自治会への加入・加入のメリットの発信	○歩み寄る
防災・震災に関して万全 ○突然の災害にも対応できること ○震災に対して万全である	○支援体制・避難場所 ○（避難場所などで市域を）広範囲に活用 ○仮設の住宅場所 ○避難訓練 ○避難場所への看板設置 ○ネットでの情報開示（ツイッター）（行政） ○避難場所のWi-Fi完備	○各家庭での食料備蓄 ○ソーラー発電 ○各家庭での水の備蓄
○新しい病院がある		
交通ルールが守られている ○交通ルールが守られ、通学中の子どもが安全に歩ける ○しばらく金時隊等の充実 ○路地に花や緑を増やす	○歩道グリーンゾーンの設置（子ども用、通学路、小学校前に1本くらいは）（行政・PTA） ○（通学路の見守りなどの）組織化 ○明るいまちにするため、呼びかけ（自治会・商店街）	○通学路のPTA・教員による見守り、声かけ

主な意見

- 「私たちの地域がこうなったらいいな」では、「昼夜問わず、安全に歩けるまち」、「近所のつながり・コミュニケーションがある」、「防災・震災に関して万全であるまち」、「交通ルールの守られている」が出された。
- 「昼夜問わず、安全に歩けるまち」では、街灯を増やすことやどこが安全ではないのか調査することが必要。また、街灯を増やす代わりに広範囲に光が届くLEDに変えることや、スーパーやコンビニを誘致できれば、店の明かりやそこに来る車のライトを街灯の代わりとして考えることができる他、買い物場所が増えるなどのメリットがあるとのアイデアが出されました。市民ができることは、玄関の明かりをつけることで街灯以外の明かりを確保することが出来るのではないか、そのための明かりは、ソーラー発電にすれば電気代が少なくすむのではという意見も出された。
- 「近所のつながり・コミュニケーションがある」では、まず挨拶をすることが重要なのではないか、自分の住んでいる地域ではすれ違っても挨拶することはなく、目が合ったら避けるような地域になっている。まず挨拶をすればコミュニケーションが始まる。次に自治会への加入。加入のメリットを発信し、会員が増えることで地域のさまざまな団体がしっかり機能するようになると思うとの自治会の結束力を高めることが重要だという意見が出された。市民ができることは、お互いに歩みよってコミュニケーションすることで、近所のつながりが増え全体へと広がって行くのではないかと意見が出された。
- 「防災・震災に関して万全であるまち」では、東日本大震災の際に津波でまちが全部なくなってしまったところもあったが、2市が一つになると避難場所や支援体制、仮設住宅の設置など広範囲で考えることが出来るのではないか。また、避難場所への誘導看板の設置やツイッターなどを利用した情報発信、避難所施設へのフリーWi-Fiの設置ができると良いという意見が出された。市民ができることでは、各家庭での食料や水の備蓄、ソーラー発電の設置などそれぞれが出来ることのあるのではないかと意見が出された。
- 「交通ルールの守られている」では、南足柄市で実施している暫（しばらく）金時隊という防犯組織みたいなものが各自治会にある。小田原市でもそのような組織化されたものが広がると良い。また、通学路のグリーンゾーンの設置が少ないようなので積極的に取り組んでほしいとの意見が出された。市民ができることでは、通学路の見守りなどPTA役員や地域で順番にやっているものをしっかりと組織化するという意見が出された。

こうなったら良いな	そのために必要なこと	
		市民が出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ○専門性の高い、児童相談所や保健所 ○最低限の人権意識を持った保護行政 ○貧困でも安心して住める家があるまち ○高齢者が安心、地域福祉 ○訪問看護の水準維持 ○障がいのあるなしに係わらず住み続けられる 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部オンブズマン、知見の導入 ○インクルーシブ教育の普及 ○意識啓発・教育のシステム ○地域間ニーズに合わせた道徳教育・実践の場の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○弱者の状態を意識して気遣う気持ちをもつムーブメント
<ul style="list-style-type: none"> ○治安の良いまち ○ごみのない綺麗なまち ○エネルギー自給の推進 	情報 <ul style="list-style-type: none"> ○分かりやすい・使える情報の提供 ○都合の悪い情報も提供 ○インフラ情報の共有・システム化 ○情報予測の提供 ○地域に合った災害予測と対策 ○地域に合ったIoTシステムの導入 ○医療アセスメント（患者・市民からのフィードバック） 	地域コミュニティ（生活環境、防災、地域福祉） <ul style="list-style-type: none"> ○地域の老老介護、老老クラブ ○地域活動、ボランティア等への参加・協力 ○しばらく金時隊 ○地域ごとの対策・協力
	適当なインフラ <ul style="list-style-type: none"> ○無駄のない安心・安全なインフラ ⇒市立病院を中核とした地域医療連携システム ⇒消防・救急インフラ 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民への有用な情報共有
	<ul style="list-style-type: none"> ○複線化された福祉の制度 	<ul style="list-style-type: none"> ○ふるさと納税のような自己目的に合った納税（寄付）システム
<ul style="list-style-type: none"> ○安心してかかれる病院が近くにある ○医療の充実（産婦人科など） 		
<ul style="list-style-type: none"> ○セシウムが降ってこないまち 		

主な意見

- 福祉関係として、年齢を重ねたときの暮らしをどうするか、障がいがある人にとって地域で安心して生きていける場所なのかということも考えた。「こうなったらいいな」では、専門性の高い児童相談所や保健所、最低限の人権意識を持った保護行政という意見が出された。合併して中核市になり、児童相談所や保健所を持つことになった場合には専門的な知識を有する人材を確保してほしい。また、一番弱い状態にいる人たちと向き合うときに、行政が何に気をつけないといけなにかを把握できる人材なり組織でないと困ると意見が出された。「そのために何をしたらよいか」では、外部のオンブズマンや学識経験者、又、当事者のチェックが入ることやちょっとおかしいのではないかと意見を言える仕組みがあれば、外部から指摘される前に自分たちで改善できたのではないかと意見が出された。
- 他には、経済的に困窮していても安心して住み続けられるや、障がいのあるなしに係わらず誰でも住み続けられるまち、高齢者が安心、地域福祉などがあげられていました。「そのために何をしたらよいか」では、南足柄市内の県立足柄高校で実施しているインクルーシブ教育の普及という意見がだされた。障がいのある子ども学校生活を送っていることを、生徒だけでなく、保護者や地域の人を含めたさまざまな人が知ること、地域で安心して住み続けることが出来るのではないかと。行政と市民ボランティアが力を合わせて障がい者との交流を企画し、ふれ合うことでその人たちを知ることができるのではないかと意見が出された。「市民ができること」では、地域の60歳以上の方にさらに上の世代の介護などをしてもらって「老老介護クラブ」というアイデアが出された。ただ、いろいろな対策を地域でするのであれば、予算措置や地域のNPOに協力してもらおうなど、支援の方法などを行政が考えないと実効性が薄いのではとの意見が出された。
- 「こうなったらいいな」では、治安の良いまち、ごみの無い綺麗なまち、エネルギーの自給が促進されているまち、医療分野として安心してかかれる病院が近くにある、産科があるなどそれぞれ別の話なのですが、行政にしてほしいことがいくつか出された。医療に関するものでは、地域を広域的に見て、無駄のない安心・安全のインフラを造ってほしいとの意見が出された。例えば、広域消防が必要なものが必要なところに来られるかという視点での適正配置、市立病院を中核とする地域医療連携をシステム化など。どんなインフラがあるかや治安情報、地震・津波などの災害想定などの情報や市にお金が無いなどの都合の悪い情報も出し、市民と行政の情報の共有をしてほしいとの意見が出された。
- 「市民ができること」としては、提供された情報をうまく活用できていないのが損しているのではないかと考えた。市民同士で情報を共有するコミュニティがあると、情報が発信されているけど知らないという人がいなくなるのではないかと。情報の発信はそんなにお金もかからないし、有用な提供物ではないかとの意見が出された。情報でいうと、今後はIoT社会といわれているので、情報と最新の技術を使って地域をよくしていくことも出来るのではないかと意見が出された。
- 「何をしたらよいか」では、サービスの複線化することで、自分に一番あったサービスを受けられるのではないかと。すべてのサービス水準を上げるとお金が必要なので、ベースラインを決め、後は自分が必要なサービスを選ぶような制度というアイデアが出された。「市民ができること」では、ふるさと納税を活用して地域に寄付をした分の金額に応じて、必要なサービスを受けられるような、実際にはあまり寄付する人はいないかもしれないが、フレキシビリティにお金を集めて使うものがあったとしてもいいのではとの意見が出された。

こうなったら良いな	そのために必要なこと	
		市民が出来ること
地域ふるさと 愛 ○地元の風習や伝統を継承して行き、地元愛を育む ○母親が笑顔でいられる ○いい「ふるさと」と思える ○子どもが大きくなったときに、子育てしたいと思える	○地域（自治会単位）の密接なつながりを深める ○各地区で青年部を作る 多様性 ○予算を子どもに振り分ける ○母親の状況によらず行ける場所がある ○保育園を増やす前に保育士の待遇改善し、担い手の定着と目指す若者の確保 ○障がい児（配慮が必要な子）の医療施設やサポート体制の強化 ○インクルーシブ教育やえがおの教室のようなサポート強化 ○公立の中高一貫校など通わせたくなる学校 ○経済困窮家庭の子が通える塾のような場 ○南足柄の青少年の居場所、小田原新サービス展開 ex トワイライト（民間） ○ボール遊びができる公園 ○気軽に遊びに行ける公園の増設 ○いざという時のセーフティネット ○市民ニーズを吸い上げる仕組み	いつでもいける居場所・年齢や区分によらずいける場所 ○健常者だけではない、多様性を受け入れる。 ○子ども食堂を定期開催する ○父親・母親・子の居場所を作る（児童館） ○子ども会の体系を変え、会員を増やし地域行事との結びつきを強くする ○0～6才の子を育てる人向けの場 ○自治会に子ども部を作る ○利用しやすい身近な施設のあり方を考える 地域のあり方変革 ○子どもが小さいときから小・中・高校についての情報が共有され、仕組みから漏れる家庭のないように シニアに頼らない機構 ○市民が財政難であることを認識し、互助を頑張る ○体育センターの活用 ○シニア向け以外の講座を開設する、育休中の人向け
教育 ○経済格差で学力に差が出ない ○塾に通わなくても学力が高い ○放課後児童クラブの職員の資質向上と人員増加 ○不登校が減る ○大学があって他地域の若者が流入 ○公園で遊ぶことで、他者との係わりやルールを学べる ○体を使って遊ぶことで心身共に健康な子どもが多い ○子どもと高齢者が係わりを多く持てる	○小児・産科の医療を維持 ○適時投資していく 分院等の検討	
医療 ○病院施設や夜間に小児科で診てもらえるなど医療の充実したまち ○病院に行くための一時保育がある（ばーば倶楽部のような）	○シニア向けの政治をやめる	
生涯学習 ○生涯学習で世代間交流が生まれる ○年齢や体力に応じた器具等がそろったスポーツ施設がある		

要点

- 「こうなったら良いな」では、自身の母親が子育てに苦しむ姿を見て、やはり母親が笑顔でいられることが大事ではないかと考え、子育て世代の人が将来的に小田原市・南足柄市の地域が良い場所とPRしてくれる人になるのではないかと思います。「地域やふるさとへの愛」が育める環境、住んでいる地域や経済的な理由から差が生まれにくい「教育」、「医療」体制の維持、多くの世代で交流して行ける「生涯学習」の4つがあげられた。
- 「そのために必要なこと」では、地域のつながりについて、多様性や医療体制についてなどが出された。
- 多様性について、例えば、障がいを持つ人、経済的に困難な状況の人かもしれませんし、未来を目指して行く若者に希望を与えるなどさまざまな対応が望まれている。そういった多様性に対応できる施設や仕組みが必要という意見が出された。
- 市民ができること、年齢や区分（例えば、母親が働いている・いない、子どもが小学校に上がっている・いないなど）によらず行ける場所があると良い。また、年齢的に子ども会に入れない0～6歳の子どもやその親が、地域で孤立しないように自治会に子ども部を作ることや利用しやすい身近な施設を開放するなどできたら良い。さらに、青少年の居場所として、小田原市内で実施している子ども食堂を南足柄市内でも企画しているので、定期開催ができると良い。最後に、シニアの活用として南足柄市では、「ばーば倶楽部」が子育て世代を支えているので小田原市でも同じようなことが出来るのではないかと意見が出された。

こうなったら良いな	そのために必要なこと	
		市民が出来ること
文化事業の充実 ○学習空間の確保	○図書館の充実 ⇒蔵書を増やしてほしい ⇒学習スペースを増やしてほしい ○読書ノートの活用、ブックスタート ○期間限定の博物館・美術館、映画館 ○スポーツ施設の充実 ○校庭を（人工）芝に ○大学のキャンパスや研究所の誘致 ○地元木材を利用した教室などの木質化	
定住人口増加 ○若い世代や子どもが多いまち	○生まれたときの記念品 ○市オリジナルの婚姻届や母子手帳	
子育て ○安心して出産・子育てできるように ○マタニティ期・出産・子育てまでケア ○ママが将来に不安を感じない ○子どもらしくのびのびと遊べる環境 ○心身共にすこやかな子どもが育つ ○子どもがのびのび遊べる環境	○合併してもニューボラを実施（全員に対して） ○緊急時に対応できる病院を増やし、近隣地域との連携体制 ○産休・育休が取得しやすい仕組み ○出産できる病院を増やす ○自然体験の充実 ○見守る大人の役割を共有する場 ○子育て支援センターを充実させる ○一時預かりの充実 ○妊婦の交流の場 ○保育料の補助 ○保育所を整備し待機ゼロ	○ほめる・認めるなどママたちの座談会 ○世代の異なる人と交流する機会を増やす ○育児経験者や専門の人による相談の場
生涯学習 ○地域密着型の教育 ○自分の生まれたまちに誇りを持てる	○託児付きの講座や勉強会 ○伝統的な職業の体験 ○使用されていない農地で農業体験 ○恵まれた自然のなかで遊ぶ機会を増やす ○子どもが自分で考えた「どのようなまちにしたいか」を実行できる場（イベント）をつくる	○地域の方を講師として呼ぶ（郷土愛・将来なりたい仕事） ○子どものボランティア活動・市民活動などの指導を地元の人で行う

主な要点

- 「こうなったら良いな」では、「文化事業の充実」、「定住人口の増加」、「子育て」、「生涯学習」が出された。
- 文化事業の充実では、図書館の蔵書・学習スペースの充実、施設の建設ではない期間限定の美術館・博物館、映画館（野外で映画の上映や恐竜・花粉症についての展覧会など）、スポーツ施設の充実、学校の校庭を芝にする（小田原市にはあるが南足柄市にはない）、大学の研究室やキャンパスの誘致が必要との意見が出された。
- 定住人口の増加では、他市でオリジナル婚姻届や母子手帳により（交流・定住）人口が増加したという話が出された。また、生まれたときの記念品を渡すということで、小田原市では木工製品が盛んなので、地域の木材で名前入りのファーストスプーンをプレゼントするというアイデアも出された。
- 子育てについては、子育て支援をマタニティ期・出産・子育ての三本柱で考え、対象者全員へのニューボラの実施。緊急時に対応できる病院や出産できる場所を増やす。また、子育ての観点で、自然体験の実施、見守る大人の役割を共有する場、子育て支援センターの充実、一時預かりの充実、保育所の整備と保育料の補助により待機児童ゼロへ、という意見が出された。
市民が出来ることは、子育てしている人が、悩みや苦しいことを言える場として座談会を開く、世代間交流、育児経験者や専門の方による相談の場を作ること。3つの意見をまとめると、交流の場を設けることで自分たちの意識が高まる。また、交流の場ができることで、子育て支援に地域の方も巻き込みながらできるのではないかと意見が出された。
- 生涯学習については、地域密着型の教育、生まれ育ったまちに誇りを持てることが必要。そのために、託児付きの講座、伝統的な職業の体験を活発に、使用されていない農地での農業体験、恵まれた自然の中で遊ぶ機会を増やす、子どもたちが自分で企画したり考えたりしたものを実行できるイベントなどが必要との意見が出された。
市民ができることは、農業体験や生涯学習に地域の方を講師として呼び、郷土愛の醸成や将来なりたい仕事を見つけることにつながれば良い。また、子どものボランティア活動や市民活動の体験の指導も出来るとの意見が出された。

第4回	平成29年3月9日(木) 午後7時00分～9時10分
	南足柄市役所 401・402 会議室

「健康で心豊かに暮らすために」及び「活気があり魅力ある暮らしのために」の2つのテーマの中で、「私たちの地域がこうなったら良いな」と「そのために必要なこと（具体的に何をしたら良いか）」、「必要なことのうち市民が出来ること」をグループで話し合った。

主 な 意 見

テーマ：健康で心豊かに暮らすために

○健康に関する意見

ケアタウンの推進や病院機能の充実によって、健康寿命が長くなる。

○心の豊かさに関する意見

散歩・サイクリング・ヨガなどで体を動かせる場所がある。

様々な世代の人が交流できる場所がある。

【市民ができること】

困っている人に積極的に声かけをする。

テーマ：活気があり魅力ある暮らしのために

○観光資源に関する意見

城下町のような歴史を生かした街並みがある。

和を感じられる体験ができ、国内外から観光客が訪れる。

○人口増加に関する意見

自然を生かした生活スタイルを発信し、移住者が増える。

移住者向けの住宅が整備される。

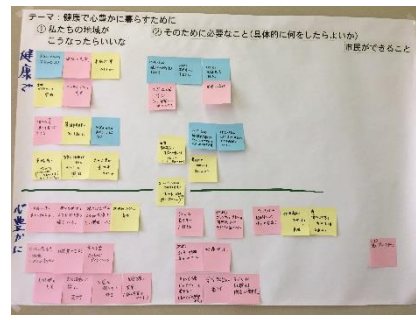
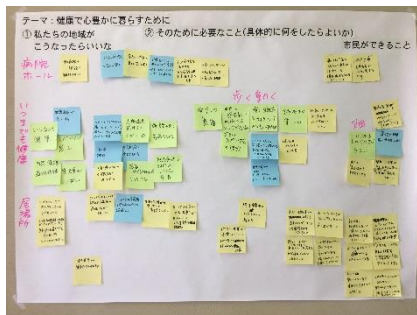
○地域の魅力に関する意見

特産品のブランド化され、有名になる。

地域特性（平野～山）を生かしたバラエティー豊かな農産物がとれる。

【市民ができること】

SNS を使って情報を発信したり、観光ボランティアなどに登録したりする。



※上段は左から「健康で心豊かに暮らすために」について話し合った1班、2班の内容。
 下段は左から「活気があり魅力ある暮らしのために」について話し合った3班、4班の内容。

こうなったら良いな	そのために必要なこと	
		市民が出来ること
病院 ホール ○市立病院の機能が維持される	○市立病院の建て替え ○早急に予算と具体策を考える	○適切な予算を得るために財政状況を知り、優先順位を考える力を持つ
いつまでも健康 ○健康寿命が長いまち ○スポーツが盛ん ○自然保護・森林保護 ○笑顔がいっぱい	○市民ホールを建てて、文化会館を壊すことにならないようにする ○文化会館の利用計画を充実させ、活用する ○オープンデータ、情報公開、参政 ○セルフメディケーション（歯・タバコ・アルコール・運動・生活習慣・大人の食育） ○定期健康診断のイベント化 ○健康診断の受診促進 ○落語のまちにする ○（健康に関する）指導・講座 ○保険センターの機能を見直す ○医者にかからなければご褒美 ○地元食材を利用したレストランや弁当	○パブコメを書く、市民委員になり、意見を出す 畑 ○家庭菜園をやりたい人がやれるようにバックアップ ○口に入れるものすべてがうまい ○農地の利用件を農業者以外に ○市民が「農」にふれる機会をふやす ○空いている家やテナントを活用し、漠然とした不安を解消する ○職員に対する意見はタブーという地域特性をなくす ○困っている人に積極的に声をかけ、問題を自分で抱えこまない ○セーフティネットがないと感じたときに声をあげる ○ハンディキャップを抱えた人も参加できる場を増やす ○新規参入者へのあたたかいまなざし、移住時のモニタリング ○小さい団体が連携できるシステム構築 ○市民で新しいことをする事例を SNS で発信する。 ○ボランティアになってもらう人を広く募集するシステムを構築 ○災害時の親子支援など、災害弱者に対するアナウンス ○地域活動への入り口があること、新しく来た人にも明示されていると入りやすい
居場所 ○いざという時のセーフティネットがある ○社会的な問題を相談できる駆け込み寺があり、解決方法とニーズを吸い上げるシステムがある ○空き家等を貸し出すための補助	歩く動く ○散歩コースの整備 ○中学校の部活動に地域の人が合流 ○大きなスポーツ大会の誘致 ○貸し自転車でサイクリング 小田原⇄南足柄 ○何歳になっても活躍できる（働ける）社会環境、お金の余裕、心の余裕 ○自然の中でのヨガ（パワースポット、寺、滝、神社） ○まち歩きが楽しい、まち歩きイベントを増やす ○体育センターを多くの人に利用してもらう ○ハンディキャップを抱えた場合の居場所がある ○子どもの居場所を学校以外にも確保する ○育児や介護等による女性への負担減らす ○0～18 歳の子が行ける場所があると良い→児童館 ○児童館という文化を考える ○ケアタウン事業が浸透していない。地域への積極的な改革	

主な意見

- 「こうなったら良いな」では、「病院 ホール」、「いつまでも健康」、「居場所」の 3 項目に分かれた。
- 「居場所」の内容では、いざという時のセーフティネットがある、移住者の居場所がある、貧困などの社会的弱者が相談できる場所やニーズを吸い上げるシステムがあるといったことが意見として出された。「そのために必要なこと」では、ハンディキャップを抱えた人の居場所、学校以外の子どもの居場所、育児や介護などの女性の負担を減らす、0～18 歳の子どもの居場所としての児童館、児童館と言う文化について考える機会が必要、また、地域の助け合いとしてのケアタウン事業が浸透していないので、地域の積極的な改革が必要との意見が出された。市民が出来ることとして、積極的に声を上げてニーズがあることを行政に認識させる、困っている人がいたら積極的に声をかける、問題を抱えこまない、ハンディキャップを抱えた人も参加できる場所・行事が必要、多様性を認める意識を持つことが必要などの意見が出された。もう 1 つは、システム的な問題として、移住者がどんな地域サービスがあるか知るための支援、SNS などを用いて小さな団体同士をつなぎ大きな力を発揮できるようにする、災害時に災害弱者を助けに行く仕組みなどが必要との意見が出された。
- 「いつまでも健康」の内容では、健康寿命の長いまち、スポーツが盛んなまち、自然環境・森林保護が必要などの意見が出された。「そのために必要なこと」では、「歩く動く」をテーマに、健康づくりのための自然を利用した散歩コースやまち歩き、自分で健康管理する（セルフメディケーション）の推進やその指導を行政が行う、健康診断をイベント化して受診を推進、医者にかからなければご褒美、笑うことが健康に良いと言われているので落語を開催するなどのアイデアが出された。また、健康と食を関連させるという視点で、小田原市域で実施しているまち歩きイベントを南足柄市域でも実施し、地元食材を利用したレストランで昼食。健康のための運動という視点で、小田原・南足柄をサイクリングできるようにレンタサイクル、中学校の部活動に地域の人が合流する、大きなスポーツ大会の誘致、自然（寺・滝・神社）などでヨガ、高齢者が活躍できる（働ける）社会が必要とのアイデアが出された。
- 「そのために必要なこと」として「畑」という視点で意見が出された。農地が都市を取り囲んでいるような地域のため、都心では出来ない暮

らしができるのが良い。ただ、移住者が居を構え、畑を利用しようとしても農地法の関係等で難しい。みんなが農地の豊かさを享受するために農業委員会のメンバー構成や畑を利用するための手続きの簡素化などを考えることが必要との意見が出された。

- 「病院 ホール」の内容では、市立病院の機能を維持されることが必要との意見が出された。「そのために必要なこと」では、市立病院の建て替え、予算の具体策を考えるなどの意見が出された。病院があることは地域にとって大切で、市立病院に関しては、南足柄市民も関心が高い。小田原市はホールを建設しようとしている、片や南足柄市はバブル最盛期に作った音響設備が立派なホールがある。財政的な理由で維持が困難な状況の為、小田原市のホールは残すけど、南足柄市のホールは閉鎖しますとなってほしくない。限られた予算の中で芸術文化振興をするにはどの様にしたら良いのか話し合うことが必要との意見が出された。

市民が出来ることでは、適切な予算額を得るために財政状況を知り事業の優先順位を考える力を持つこと、積極的にパブコメに意見を出すとの意見が出された。

行政してほしいことでは、情報をオープンデータ化し、行政への市民の参加を促してほしいとの意見が出された。